

H24 キャリア教育指導者育成研修報告

教諭 佐藤広幸

研修名称 平成24年度キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）

研修期間 平成24年6月11日(月)～6月15日(金)

研修先 独立行政法人 教員研修センター(茨城県つくば市)

【日程概要】

6/11(1日目) 開講式

①課題協議：「キャリア教育の現状と課題」

②事例発表・協議：「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1」
～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～

6/12(2日目)

③事例発表・協議：「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2」
～校種間連携の方策～

④課題協議：「社会と協働して進めるキャリア教育」

⑤事例発表・協議：「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3」
～地域社会と学校の連携推進のために～

6/13(3日目)

⑥課題協議：「キャリアカウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」

⑦演習：「キャリア教育推進のためのプログラム開発」

6/14(4日目)

⑧課題協議：「キャリア教育により身につける力」

⑨演習：「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」

6/15(5日目)

⑩課題協議：「研修講師となるために」

閉講式

【協議事項】

①から⑥の協議は、始めに問題点をグループ毎に話し合わせ課題を発見させた後、全国各地の豊富な実践中の事例紹介(話題提供)をし、再度グループ討議をさせ予め示していた課題解決策を各班で発表させるスタイルで進められた。⑦から⑨の演習はそれぞれ半日を使い、予め条件設定されたモデル高校についてその高校のキャリア教育プログラムを3年のスパンで計画する内容であった。最後はポスターセッションとなった。

【感想等】

さすが文科省の研修は講師が充実している。事例発表を行う講師は全国各地の教育関係者であり、事前配付の冊子内容に比べかなり新鮮な内容である。その素晴らしさに圧倒されてしまった。

普通高校の、いわゆる進学校のキャリア教育プログラムのヒント探しを目的とし5日間参加した。

まず大切なことは、学校の実態把握と育てたい生徒像の共通理解を全職員で共有する事である。新たなイベントを探し出すより、従来まで取組んできた各種行事の結びつき(事前事後指導を含む)を3年間の中で考えたり、各教科の指導内容をお互い関連づけて、将来役立つ方向性を生徒に示してあげることの大切さに気づかされた。OPキャンパスやインターンシップ等これから本格的に動き出すが、取組が一過性とならないための指導や工夫(特に事前事後指導の充実)を心掛け、研修で培われた視点を生かしていきたい。

「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて」

1 地域や学校でキャリア教育を推進する上での課題

①縦の接続

a) 中学校段階までの指導内容の把握と出口指導について

本校は普通科6クラス(内2年次より理数科1クラス)の普通高校である。進路志望のほとんどが、国公立大学への進学である。進路指導としてこの目的を果たすべく、様々な学力向上策や進路選択、進路情報等の提供を学年部主導で実践し今に至っている。しかし、時折大学でのやり甲斐が見いだせなくなってしまった卒業生の話が聞こえてくることもあり残念な思いをしている。

ここで、「将来の社会参加を視野に入れ、何のために学び、何を学ぶのかをきちんと理解させて、生き方なり方指導をして生徒を送り出していたか?」と問われれば万全とは言えない思いがある。極端な言い方だが、高校生活の出口付近で、大学へいかに合格させるか、を重視する傾向があった気がする。

まずは出口だけの指導ではなく、高校生活の入り口にたどり着くまでの状況把握が大切である。つまり中学校を卒業するまで、どんな内容のキャリア教育がなされてきたのか、ということをお我々が具体的に知ることである。その上で高校で育てたい生徒像を明確にし、大学合格後も進路志望達成へ向けて自ら取り組んでいける素地を作り上げる指導がより必要である。共通認識された「育てたい生徒像」に近づけるべく、自分の持ち場(教科や分掌等)で生徒との関わり合いをこれまで以上にもつことが本校の課題である。

b) 大学模擬講義

本校では大学アドバンス講義と称し12年続いている事業である。内容は2,3年を対象に9月中旬頃の1日で20数名の大学の先生方をお招きし、1日2コマの講義を実施するものである。2,3年生は希望する講義を2コマ選択、聴講し将来の進路選択に役立てている。なお、拝聴した講義がきっかけとなり、教授の下で勉強したいと大学受験し合格したケースもあり嬉しい限りである。しかし生徒が希望する分野の講義を全て用意するのはかなり難しく現実には無理である。そうすると聴きたい講義分野と無関係ではないが近くもない講義を聴講する生徒も少なくはない。そんな生徒には一過性のイベントとして終わっているのではないかと危惧している。

②横の接続

医療技術看護系のインターンシップ

ここ数年の不景気は理系人気を後押ししている。その中でも医療技術看護系の人気は顕著であり、本校でも根強い人気がある。今年から2,3年生の志望者を対象に長期休業中に1~2日程度で近隣の病院で体験実習を予定している。

2 課題解決のための方策

①a) について

事前に先生方からアンケート形式で意見をいただき、「本校のキャリア教育が目指すもの、育てたい生徒像」について全体計画を作成した。十分な時間をかけたつもりだが、全体計画の作成過程でいろいろ考えていただいたことが、計画完成後に絵に描いた餅にならないよう、教科間や分掌間でいかに連携し取り組んでいけるかが今後の課題である。特に本校は学年主導で学校が動いているので、各学年でのさまざまな取組が全体計画とどう位置付けられているか、キャリア教育担当分掌の進路指導部で確認していきたい。

また小中学校段階でのキャリア教育指導内容を把握することについては、4月に実施する生徒面談中間中に、担任が直接生徒から聞き取る方法がある。さらには5月までに実施する進路志望調査の項目に追加して調べることもできる。そして調べまとめた結果を各学年部や進路指導部で共有し、全職員へ情報提供したい。

b) について

受講後の感想文は書かせているが、他の生徒がどう考えているかを知る機会を与えていない。同じクラスの中でも自分の視点とは異なる意見や感想、将来展望の有無など他の生徒の情報をすることで自分を再認識できることがあろう。対比させるきっかけを与える策を講じたい。

②について

今年初の事業であり、事前事後の指導も含め実施していろいろ検討したい。ただ将来的には医療技術看護系だけでなく、他分野のインターンシップも検討する必要があるだろう。しかし人口5万人程度の湯沢市の地元企業に、インターンシップ先として希望する十分な受け皿が存在するかが大きな課題である。

「キャリア教育推進のためのプログラム開発」

1 児童生徒や地域の実態

秋田県の南部に位置する湯沢市(人口約5万人程度)のセンタースクールとして昭和18年創立。現在普通科6クラス(内2年次以降から理数科1クラス)で生徒数700人には満たないが、部活動が盛んな高校である。入学生の9割以上は国公立大学への進学を志望している。例年、卒業生約230人のうち120人前後がその志望を達成している。残りは私立大学が約60名程度、短大や専門学校への進学が30人程度、そして20人に満たない数が浪人であり、就職を志望する者は多い年でも4、5人程度となっている。

人口減少率全国一の秋田県で、急速に進む高齢化の波は湯沢市をも直撃している。地元の基幹産業は農業であるが決して豊かではない。従って地域住民は、本校の卒業生が大学卒業後に地元へ戻り、医者や看護師、教員や銀行、市役所職員等、地域のリーダー的な仕事に就き、地域を発展、活性化させてほしいと願っている。しかし大学進学を志望する生徒にとって、地元にある何社かの誘致企業は魅力的でない面もあり、Uターンをしたくとも就職が困難な現状がある。

2 職場見学・職場体験・インターンシップ等について

①職場見学・職場体験・インターンシップ等の実施上の条件(実施時期、体験する日数、体験の受け入れ先の開拓や募集、受け入れ先との連携等、具体的な内容を簡潔に箇条書きに記すこと。)

○実施時期

・今年から医療技術看護系志望者を対象にインターンシップを実施予定である。2年次の長期休業中の活動を予定しているが、参加を希望する3年生にも配慮した。

○体験日数

・3日程度の日程を想定していたが、受け入れ先の都合で看護系希望者は2日間、医療技術系希望者は1日～2日間での実施をした。

○受け入れ先の開拓

・受け入れ事業所一覧を県高校教育課が各校に配付している。その中の県南地区にある事業所を参考に生徒に選ばせるのが一般的な開拓方法であろう。

・今年は分野を限定しての実施のため、直接受け入れ候補先(病院)と交渉し、期間や人数を調整した。

○受け入れ先との連携

・地元の基幹病院に2学年で約50名程度の人数をお願いするべく交渉した。

・具体的な期日や派遣生徒が決定次第、挨拶を兼ね注意事項を直接伺いに、生徒が訪問する前に教員が一度訪問をした。

・体験実施日の数日前に訪問予定の生徒に受け入れ先へ電話連絡させた。

・インターンシップ実施中は職員が手分けをして受け入れ先を訪問(巡回)した。

・事後は次年度の課題を検討するため、生徒に書かせた礼状を携えながら、受け入れ先へ再度の訪問をした。

・最後は生徒がまとめた報告書の綴りを受け入れ先に送呈し、さらにアンケート調査を実施した。そこで次年度へ向けての課題と翌年の受入を依頼した。

②職場見学・職場体験・インターンシップ等の事前指導(3時間)

活動内容	児童生徒の活動	運営上・指導上の留意点及び【育成したい能力】
1 受け入れ事業所を理解する	・同じ受け入れ先になる生徒を実施日毎にグループ化し、調べ学習を行う。	・調べた情報を生徒同士が交換し合うことで、他者への働きかけができていないかに留意する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上のホームページを参考にし、受け入れ先の事業内容を調査させ、レポートにまとめさせる。 	<p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校でも職場体験をしているので、自分の希望がどう変化してきたかを意識したレポート内容であることを確認する。 <p>【自己理解・自己管理能力】</p>
2 コミュニケーション能力の育成やマナーの習得	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで挨拶、自己紹介等を練習する。合わせて基本のマナーについて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かり易い声で話すことを重視する。 ・様々な人とコミュニケーションをはかり、協力して物事に取り組もうとする態度を養う。 <p>【人間関係形成・社会形成能力】</p>
3 受け入れ事業先への電話確認	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が(又はグループのリーダーが)電話し、実習内容に関する説明を受け確認をとる。 ・受けた内容を同じグループ内で共有し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が確認した内容と事業所からの事前連絡内容に食い違いや漏れがないかを担当教員段階で確認する。 <p>【課題対応能力】</p>

③職場見学・職場体験・インターンシップ等の事後指導（3時間）

活動内容	児童生徒の活動	運営上・指導上の留意点及び【育成したい能力】
1 学習日誌の整理と記入	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの学習日誌を記入整理させ振り返らせる。 ・担当への礼状を作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話いただいたことが文面に盛り込まれるよう指導しながら、社会的な習慣儀礼を理解させる。 <p>【課題対応能力】</p>
2 報告書の記入と発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書を記入しまとめる。 ・発表用原稿の作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義や楽しい面、苦しい面が盛り込まれているか。 ・仕事内容が具体的に示されているか。 ・共に働くことで気付いたことがあったか。 ・発表原稿を読ませ、伝えたいことが十分に盛り込まれた内容となっているか。 <p>【キャリアプランニング能力】</p>
3 情報交換会等	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会等で発表の場を設定する。 ・個人またはグループで発表させる。 ・報告書は次年度の学校祭で展示コーナーにてパネル展示をし、来校者に取組を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことがはっきりとした言葉で伝わっているか。 ・聞く側の生徒は疑問点をもって発表内容を意識しているか。 ・展示に関わる仕事は、次年度にインターンシップを希望する生徒にも自主的に手伝える。 <p>【キャリアプランニング能力】</p>

--	--	--

3 地域や学校で取り組んでいるキャリア教育の特色

a) 大学模擬講義

12年前から本校では大学アドバンスト講義と称し大学模擬講義を実施している。内容は2,3年を対象に9月中旬頃の1日で20数名の大学の先生方をお招きし、1日2コマの講義を実施するものである。2,3年生は希望する講義を2コマ選択でき、聴講し将来の進路選択に役立てている。最近では地元の新聞や広報を通じて紹介し、保護者や一般市民の参加を呼びかけており、概ね好評である。

今年は希望講義の事前調査をLHR等で行う際に、20種類以上用意されている講義一覧の中から、どうしてその講義を選んだのか、そのきっかけを調べてみたい。なぜなら今年は2学年を中心に医療技術看護系分野でインターンシップを実施する。このインターンシップに参加した生徒は、その後に実施するアドバンスト講義で医療系分野の講義を聴講することは予想できる。だから夏休み中のインターンシップが、9月の大学模擬講義での講義選択に影響があるかを探るためである。さらに講義後にはレポートを生徒に書かせるが、その内容にも注視し生徒の進路意識の変容をとらえたいと考えている。こうした関連付け調査を学級担任や学年部職員が意識することで、指導する側にキャリア教育に関する様々な事業の連携意識が伴うことを願っている。

同様に、インターンシップ不参加の生徒にも、受講後に書かせたレポートの中に自分の進路志望を意識した内容が含まれているか、に注意して指導した。

b) 大学訪問

1年次の10月～11月中の平日1日間で県内の3大学と一部県外の1～2大学を訪問する。この時期には次年度の文理選択決定に向けた何回かのガイダンスが実施されている。これが終了する頃、自分が志望する学部ひとつを選択し、受け入れ先の大学を訪問するのである。なお、日時が定められた大学主催のオープンキャンパスがあるが、それは総じて夏休み中に実施されており、イベント的な盛り上がり为主として感じられ、大学本来の生の姿からは遠い。まして部活動やその他で忙しい生徒には、たとえ夏休みでも自主参加できないのが実際である。

生徒にはじっくり将来を見据えた文理の選択を考えさせたい時期である。湯沢雄勝地域には大学が皆無であり、多くの1年生はその学舎を見たことがない。よって十分な情報を得るために受け入れ先の大学を訪問させることは意味深い。たとえ志望する大学でなくとも、どんな学問研究がなされているかを事前学習にて知り、訪問して自分の目で確かめ、その内容を友人と語り合うことは、自己の進路志望を意識する絶好の機会となるはずだ。平日に複数の大学へお邪魔し、生の姿を見学させていただくための日程調整は大変だが、毎年1年生が3学期に入る前に継続実施している事業である。

訪問後の感想を各大学学部別にとりまとめ、総合的な学習の時間で生徒に発表させている。これは自分との差異を意識し、自分の将来を見つめ直すことを目的としている。

c) 医療技術看護系のインターンシップ

本年度からの2年生を中心に実施した。ここ数年の理系人気、とりわけ資格取得が大学卒業後の就職に直結する医療技術看護系は、人気が高まる一方であり、年々医療系の国公立大学へ入学することが難しくなっている。従って少しでも就業体験がその後の高校生活への取組について、モチベーションアップに結び付くことを願い、この分野のインターンシップを計画した。実施後の生徒の感想が楽しみである。

d) フロンティア学習

1,2年の総合的な学習の時間内に各学年で年間4～5時間、2学期の後半から3学期の期間で実施している。内容は生徒が興味関心のある学問分野(各学年部の構成人数と同じ12～13分野から)を1つ選択させ、教員が行う講義を受けるものである。実施の際は、中身は受験対応ではない、教養的な分かり易い内容になるよう努めている。例えば教員が大学時代に研究していた専門分野を理解しやすく簡単に説明する場合もある。講義選択の際には似通った分野にならぬよう、各教科内で配慮しながら実施している。

この時間では進路志望を反映させた講義選択を強制していない。講義終了後に書かせた生徒の感想を読むと、コメントには正直な感想以外に自分の進路を意識した内容も読み取ることができ、成長の一部がうかがえる。

e)OBによる進路講演会

大学受験向きの進路講演会は毎年予備校講師を招いて実施しているが、それに加え今年から社会で活躍している本校卒業生の進路講演会を9月に実施した。内容は大学生に長く関わってきた本校OBに、最近の大学生の、生活の一場面を紹介していただき、その中で在学中の求職活動状況、そして印象に残っている学生の事例を紹介していただいた。内容は次年度以降さらに検討していく。

大学に入るためだけの視点ではなく、入学後に多少の挫折があっても、自らの将来設計に基づき力強く実行し歩んでいる大学生の話をしていただくことで、高校在学中での将来設計の必要性や困難を克服しようとする事の大切さを、講演と通じて生徒自身に意識させることが目的である。

f)卒業生に聞く会

毎年3学期の終業式の日に全校集会を開いている。国公立大学の前期日程入試結果が判明した頃なので、合格した卒業生の中から4,5人をお願いし、合格に至るまでの体験談を話してもらって1時間程度の集会である。部活動を引退してからの取組や、それ以前までの高校生活などを卒業生が話してくれることは、在校生にとってかなり新鮮であり、実施後のアンケート結果からも参考になっていることが読み取れる。残念ながら春の1回しか実施できていないが、卒業生が帰省する頃を見込み、大学生活の話を聞く機会が増えるよう検討していく。